

1 競技課題

- (1) 概ね、縦1,800mm×横1,800mm（床上150mm）の垂直パネルに、競技規則に従い施工図及び施工条件に示す配線工事を行う。
- (2) 公表されている令和7年度第一種及び第二種電気工事士技能試験を参考にした課題とし、金属管工事、PF管工事及びケーブル工事を行う。
- (3) ボックス内の結線方法は、競技当日に受付された最初の選手が抽選で決定する。

2 競技時間

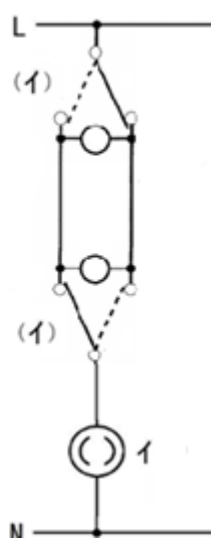
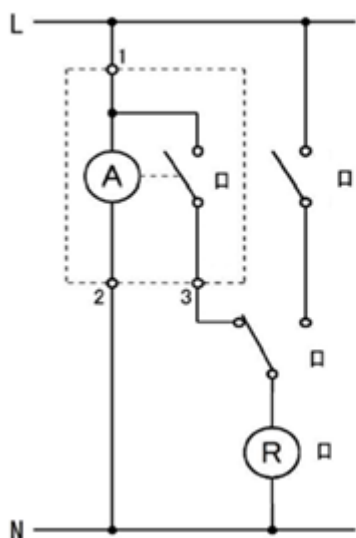
- 120分（2時間）で終了する。ただし、延長時間は15分まで認める。
1時間後に水分補給の休憩時間を5分取る。

3 施工条件

- (1) 電源は単相2線式100Vの回路とする。
- (2) 電灯・パイロットランプ等の点灯方法
 - ① 展開図の通り3路スイッチ（イ）の2か所で照明器具が点滅し、パイロットランプは、異時点灯とする。
 - ② 照明器具（ロ）は片切スイッチ（ロ）による点滅か、自動点滅器（ロ）による点滅かを、3路スイッチ（ロ）により切り替えることができる。
- (3) 指定寸法
 - ① 寸法原点は作業板に赤ピンを指している（パネルに×印があり、その交点）とする。
 - ② 寸法原点を基準に、水平垂直となる基準墨を引く（枠を描いても構わない）。
 - ③ 指定の寸法は、器具相互間、器具とボックスの間及び管路、それぞれの中心の寸法とする。
 - ④ 作業を行う上で書き入れた墨入れ線は消さずに残しておくこと。指定寸法以外に施工上必要と思われる補助墨は引いても構わない。
- (4) 分電盤
木板（縦150mm×横150mm×高さ12mm、四隅に取り付け用穴開け済φ4）に配線用遮断器を取り付け、分電盤とする。
- (5) 配管・配線工事
 - ① 金属管及び金属製ボックスの接地工事は省略する。
 - ② 各箇所の子びの曲げの内側半径は、施工図に従う。曲げ半径で指定がないものは、「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）」に準ずる。
- (6) 電線（IV）の色指定
電源からの接地側電線にはすべて白色を使用すること。100V回路の電源から点滅器までの非接地側電線には、すべて黒色を使用する。その他の配線についての電線色は指定しない。
- (7) 電線・器具の配線接続
 - ① 接地側の電線は、器具の接地側端子に接続すること。
 - ② 自動点滅器の代用端子台は自動点滅器説明図のとおり接続する。
 - ③ 電線の接続箇所をできる限り省略するため、素通し配線（未圧着配線）を行うこと。また、ボックス内の余長はとらなくてもよい。
 - ④ ボックス内の接続は、リングスリーブ（E形）による圧着接続もしくは、差込形コネクタによる差込接続とする。ボックスA、B、C、Dの接続方法は、競技当日抽選にて決定する。リングスリーブ（E形）による圧着接続では、電線端部のヤスリ掛けをし、端部を滑らかに処理して、所定の絶縁キャップを取り付けて絶縁処理を行うこと。
 - ⑤ 各配線の電線条数は、最少条数とする。
 - ⑥ 埋込連用配線器具は作業板（パネル）に対して縦付け施工とする。
- (8) 作業終了の要件
 - ① 支給されたカバー類は、全て取り付けられていること。

- ② 配線用遮断器、及びタンブラスイッチは「切」の状態としていること。3路スイッチの状態は問わないものとする。
 - ③ 作業シートを剥がし、作業エリアを清掃し、工具・残材料及びゴミ箱は指定された作業エリア外に出しておくこと。
- (9) その他
- 電線、サドル、ステップル等は材料表による支給の範囲内で施工すること。

【展開接続図】

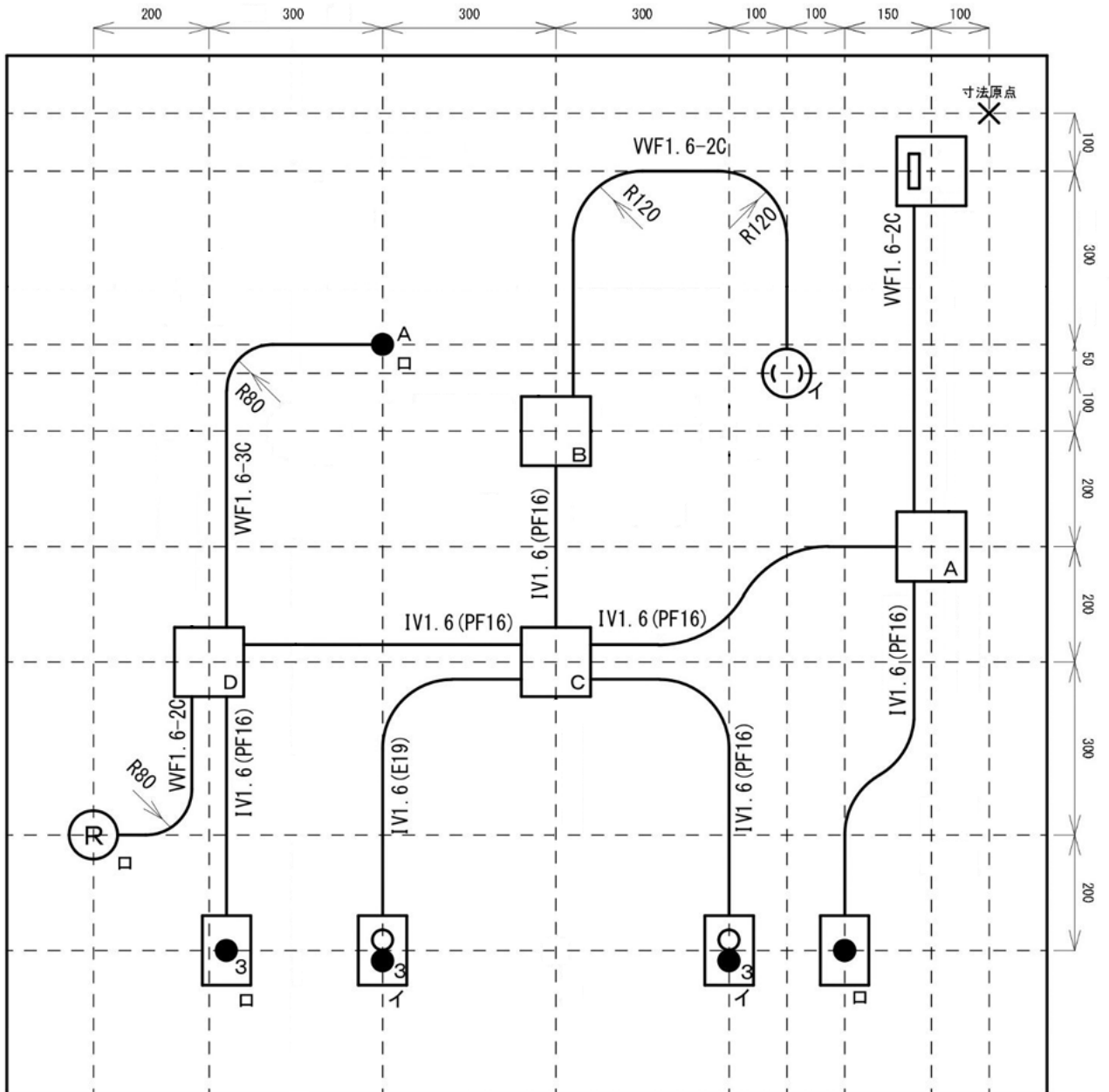


4 当日決定事項【抽選及び変更事項】

(1) 各ボックス内の接続方法

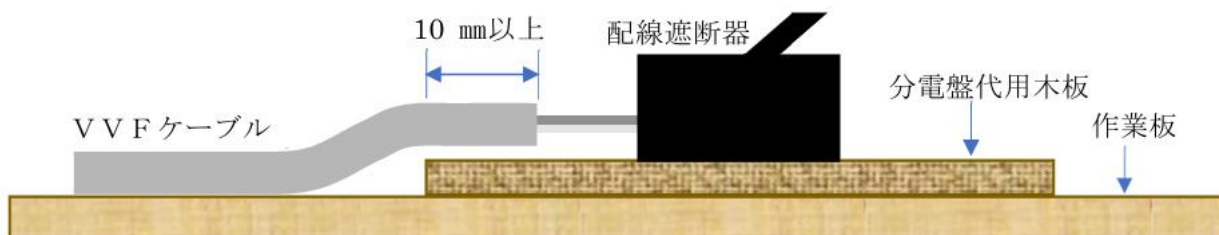
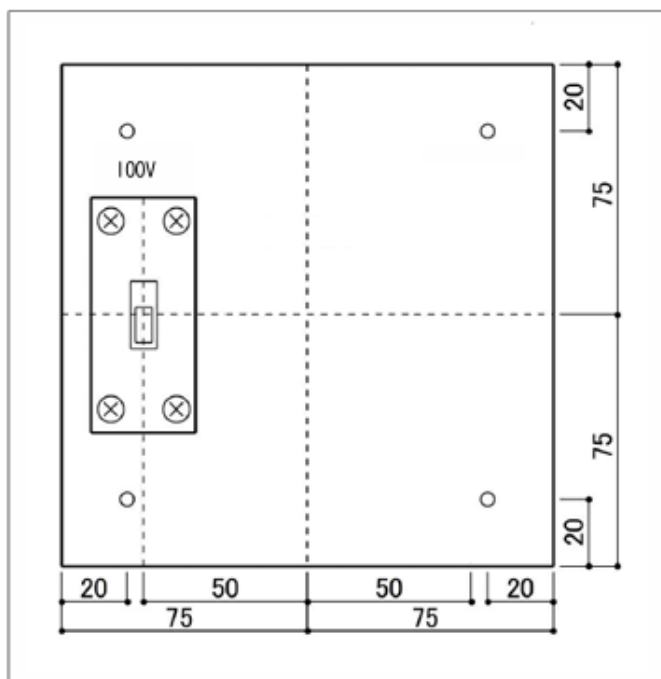
I	A・B リングスリーブ	II	A・B 差込コネクタ
	C・D 差込コネクタ		C・D リングスリーブ

【施工図】



【分電盤機器配置図】

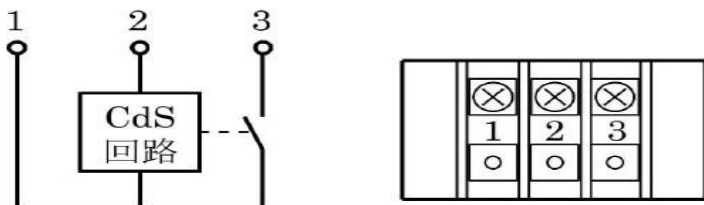
分電盤代用木板（ベニア板高さ：12mm）へ下図のように配線用遮断器を取り付ける。



【自動点滅器説明図】

端子「1」にL側接続、「2」にN側接続、「3」に照明器具への接続とする。

内部結線図



【材料表】 この一覧には当日変更の材料及び抽選により余る材料も含まれています。

No.	品名	摘要	数量	メーカー及び型番
1	600V ビニル絶縁電線 黒	1.6mm	4.5m	
2	600V ビニル絶縁電線 白	1.6mm	3.5m	
3	600V ビニル絶縁電線 赤	1.6mm	13m	
4	ビニル外装 平形ケーブル	1.6mm-2C	3 m	
5	ビニル外装 平形ケーブル	1.6mm-3C	1 m	
6	ねじなし電線管	E19	0.8m	Panasonic DW819K
7	ねじなし電線管ボックスコネクタ	E19 用 (アース端子なし)	2 個	Panasonic DS02192
8	絶縁ブッシング	E19 用	2 個	Panasonic DS1719
9	電線管用サドル	E19 用	8 個	Panasonic DS1619
10	合成樹脂可とう電線管	PF16	4.5m	Panasonic DM316KH
11	合成樹脂可とう電線管用コネクタ	PF16 用	12 個	Panasonic DMP16K
12	合成樹脂可とう電線管用サドル	PF16 用	25 個	Panasonic DM3916
13	スイッチボックス	1 個用(カバー付)	4 個	Panasonic DS4911K
14	大型アウトレットボックス	大浅型(止めねじなし)	4 個	Panasonic DS38443
15	配線用遮断器 AC100V	2P1E 20A	1 個	Panasonic BS1112
16	端子台	3P20A	1 個	KASUGA T20 C03
17	ランプレセプタクル	6A 250V	1 個	Panasonic WW3402
18	丸型引掛シーリング	6A 125V	1 個	Panasonic WG5015W
19	引掛レセップキャップ	6A 125V	1 個	Panasonic WW3410WK
20	埋込連用タンブラスイッチ	15A 300V	1 個	Panasonic WN5001
21	埋込連用 3 路スイッチ	15A 300V	3 個	Panasonic WN5002
22	埋込連用パイロットランプ 白	100V 用	2 個	Panasonic WN3031WK
23	連用埋込取付枠		4 個	Panasonic WN3700
24	ゴムブッシング	19mm 用	3 個	KYOWA GB-19
25	リングスリーブ	小 (予備含む)	10 個	
26	差込型コネクタ	2 本用 (予備含む)	10 個	ニチフ
27	差込型コネクタ	3 本用 (予備含む)	5 個	ニチフ
28	絶縁キャップ	小 (予備含む)	15 個	カワグチ
29	ステップル	1 号 (予備含む)	15 個	カワグチ
30	ステップル	2 号 (予備含む)	10 個	カワグチ
31	ボディビス(皿)	4×10mm 取付枠用	8 本	
32	タッピングネジ(皿)	4×20mm	80 本	
33	タッピングネジ(皿)	4×25mm (シーリング・レセプタクル)	4 本	
34	タッピングネジ(トラス)	4×20mm (自動点滅器用端子台)	2 本	
35	タッピングネジ(トラス)	4×25mm (分電盤用)	4 本	
36	分電盤用木板	150×150×12mm	1 枚	
37	LED 電球	E26 0.9W 程度	2 個	

※ 材料表 4 および 5 に記載されているビニル外装 平形ケーブルは、受付時に行うパネル番号の抽選後に選手、補助生徒または引率教員が所定の長さにとり切ります。ただし、材料表 1～3 の各 600V ビニル絶縁電線については支給された材料を使用することとし、交換はできません。

【競技規則】

1 服装・工具

- (1) 屋内配線工事の作業現場にふさわしい作業服(安全のため長袖)及び帽子を必ず着用する。また、チョークラインやカルコを使用する墨出し作業時には、保護メガネを着用し、金属管の切断時は保護メガネと全指手袋を着用、金属管を加工するときも全指手袋を着用する。
- (2) 常用の腰道具(ペンチ、+・ードライバー、ナイフ類、ケーブルストリッパー、スケール、ウォーターポンププライヤー、圧着工具、ヤスリ)のほかにパイプバイス台、パイプカッター、金切りノコ、パイプベンダー(電線管に傷が付かないように加工することは可)、クリックボール、リーマ、チョークライン、下げ振り、コンパス、定規、その他必要と考えられるものを参加選手各自で準備する。
- (3) その他必要なものとして、回路計(マルチテスター)又は導通試験器、作業床面の汚損等を防止する養生シート、清掃用掃除道具(手ぼうき等)、作業用踏み台、工具等を入れる腰ベルト、手袋、筆記用具、タオル、ウエス、チョーク等も使用してもよい。
天板：幅 500mm 以上、奥行き 300mm 以上、高さ：概ね 600mm 以下(それを超える場合は競技委員が使用の可否を判断する)、耐荷重：100Kg 以上、名称：作業用踏台、足場台、作業台(「踏台」は不可)その他：自作・改造していないこと(天板に板を貼ることも不可)を推奨する(作業台であれば可)。脚立、手作り品および代用品(椅子・工具箱、コンテナボックス等)についても使用を禁止する。
- (4) スケールは市販のものを使用し、課題指定寸法の目印を付けた物(指定寸法の目印を付けた見当棒のようなものも含む)は使用禁止とする。なお、スケールの個数は制限しないが、穴をあける加工をした場合は1個のスケールのみ穴1つまで(カルコ穴を含む)をあけても良いものとする。
- (5) ボックスやサドル、その他器具等を取り付けるための位置決め治具については、大きさをA4までとし数については1枚(個)までとする。ただし、今回の大会競技のみに使用可能で限定されたものでなく汎用性のあるものであること。
- (6) 金属管を曲げ加工する際に、曲げ加工しやすくする補助パイプや直角を測定できるR治具(金属管、PF管、VVFケーブルに対して)は使用可とする。
- (7) 電線を電線管に挿入する呼び線挿入器は短く切断して使いやすくしたものは使用可とし、治具とはみなさない。
- (8) 作業台は、各自で持込みとするが、天板上に曲げ半径や寸法などを事前書き込んだものや、治具を取り付けたものは使用を禁止とする。ただし、天板上の下端や横端に直角曲げ確認のためのガイドを取り付けることは、他の課題にも汎用性があるとみなし例外とする。
- (9) 万一の誤照射を防止する上で、レーザー光を照射する工具を使用することはできない。
- (10) 競技者が工具等を使用する場合、商用電源(コンセント等)の使用は禁止する。ただし、電池式(バッテリー)電動工具の使用は許可する。また、金属管の切断を行うための充電式切断機は不可とする。
- (11) 回路計や市販の導通試験器は使用できるが、バッテリー電源を昇圧するなどして直流から交流100Vに交換できる導通試験器は使用禁止とする。
- (12) 競技開始前に競技委員が工具等を見て回り、工具等への加工や寸法の書込み等(治具を含む)を認めた場合には、使用禁止となる。万一、競技中に使用して発見された場合は減点とする。
- (13) 選手が持ち込んだ治具を確認して使用禁止と判断する場合もあるので、疑わしい治具については事前に事務局に問い合わせること。(今回の競技課題しか使用できない治具など。)

2 競技

- (1) 競技は、指定された作業板(パネル)の上に屋内配線工事を施工して、その技術の優劣を競う。なお、作業板(パネル)は必ずしも水平垂直が取れているとは限らない。
- (2) 作業エリアは、概ね縦 2,700mm×横 2,000mm 相当である。
- (3) 競技時間は、清掃する時間を含めて 120 分とする。競技時間内に作業を終了し同点となった場合は、作業時間の短い競技者を上位とする。
- (4) 競技に使用する材料は、競技課題の材料表に示すものを主催者側で準備する。用意された材料以外のものを使用してはならない。また、材料によっては多めに配布されているものもある。
- (5) 競技中に材料の追加・交換等の必要が生じた場合は、係員に申し出ることができるが、減点の対象とする。なお、予備は用意するが、数量に限りがあるので必ずしも交換できるとは限らない。

- (6) 競技開始後は、工具を追加して持ち込んではならない。やむを得ず追加しなければならない場合は、係員に申し出てその指示によって行動することとするが、減点の対象とする。また、その際の所要時間は作業時間に含まれる。
- (7) 競技中に、工具等を他の選手との間で貸借りしてはならない。
- (8) 競技開始後は、各自の作業エリアから離れてはならない。なお、離れる必要が生じた場合(トイレ等)は、審査補助員に申告し、その指示によって行動するものとし、その際の所要時間は作業時間に含まれる。
- (9) 競技中に、作業エリア外に誤って材料などが落ちた場合、必ず審査員又は審査補助員に申告し、許可を得てから指示に従うこととする。なお、許可なくエリア外へ出た場合には、減点対象とする。
- (10) 競技中に、他の選手に迷惑の及ぶような行動があってはならない。このような行為があった場合は状況によっては競技の中止を命じることがあり、その際は失格扱い又は減点の対象となる。
- (11) 作業床面等を傷つけたり汚したりしないように特に注意すること。金属管の曲げ加工は床養生シートや合板等の上で行うこと。万が一床面を傷つけた場合は失格とする。
- (12) 競技終了報告は、選手が挙手して、審査補助員に「作業終了しました。」等の自己宣言により、終了したとみなし計時する。競技終了後、競技者と審査員の両者立合いの下で、点滅器(スイッチ)、配線用遮断器等の向きについて、印を付ける。
- (13) 公平を期すために、大会当日配付した以外の課題図面及びメモ用紙などの持込みは禁止する。
- (14) 安全に留意して作業すること。工具や材料を口にくわえての作業は行わないこと。
- (15) 飲料水の持込みは制限しない。
- (16) その他、競技中に生じた事項は必ず競技委員に申し出ること。

【審査について】

1 採点方法

持ち点 100 点からの減点法で実施する。

2 採点項目

- (1) 法令等の遵守、関係法令等の適合の有無を採点する。
 - ① 電線管とボックスの接続、電線支持方法、電線曲げ加工半径等
 - ② ケーブル支持方法、ケーブル曲げ加工半径等、外装の剥ぎ取り。
 - ③ 電線相互の圧着接続状態、電線と端子の圧着接続状態、差込接続状態、配線器具への接続状態等
- (2) 基本事項(競技課題との相違の有無を採点する。)
 - ① 誤結線 課題通りに動作点減しないもの。
 - ② 課題相違 課題の説明及び施工図に従って施工していないもの。
 - ③ 寸法施工図に指示した寸法との誤差が多いものは、減点対象となる。
※ ただし、墨出しのカルコ穴は減点しない。
- (3) 作業時間
採点結果が同点の場合は、作業時間の短い競技者を上位とする。
- (4) 一般事項
追加材料等については減点する。
- (5) 作業態度
競技中における不安全行為は競技規則違反として減点する。
- (6) 未完成
競技時間内に完成しないものを未完成とする。
- (7) その他
審査員及び競技委員が協議して行う。